

# 公立高等学校配置計画案

(令和2年度(2020年度)～4年度(2022年度))

令和元年(2019年)6月

北海道教育委員会

# 目 次

I	公立高等学校配置計画案（令和2年度（2020年度）～4年度（2022年度））策定の考え方	
1	趣旨	1
2	中卒者数の見込み	1
3	基本的考え方	1
4	配置計画案（令和2年度（2020年度）～4年度（2022年度））の概要	2
5	地域連携特例校の再編整備の留保	3
6	配置計画の変更	3
II	公立高等学校配置計画案（令和2年度（2020年度）～4年度（2022年度））の内容	
1	中学校卒業生数	4
2	欠員の状況	4
3	定員及び中学校卒業生数に対する割合	4
4	配置計画案（令和2年度（2020年度）～4年度（2022年度））の学校別内訳	5
5	中学校卒業生数の推計及び推移	10
III	公立高等学校配置計画案（令和2年度（2020年度）～4年度（2022年度））学区別個表	
	空知南学区	12
	空知北学区	13
	石狩学区	14
	後志学区	16
	胆振西学区	17
	胆振東学区	18
	日高学区	19
	渡島学区	20
	檜山学区	21
	上川南学区	22
	上川北学区	23
	留萌学区	24
	宗谷学区	25
	オホーツク中学区	26
	オホーツク東学区	27
	オホーツク西学区	28
	十勝学区	29
	釧路学区	30
	根室学区	31

# I 公立高等学校配置計画案（令和2年度（2020年度）～4年度（2022年度）） 策定の考え方

## 1 趣旨

「公立高等学校配置計画」（以下「配置計画」という。）は、高等学校進学希望者数に見合った定員を確保することを基本として、中学校卒業者数（以下「中卒者数」という。）の状況を踏まえ、生徒の多様な学習ニーズ、進路動向などに対応した学校・学科の配置や規模の適正化を図るために、令和2年度（2020年度）から令和4年度（2022年度）までの高校配置の計画を策定するとともに、令和5年度（2023年度）から令和8年度（2026年度）までの見通しを示したものである。

## 2 中卒者数の見込み

本道の中卒者数は、令和2年（2020年）に4万2,571人、令和3年（2021年）に4万1,010人、令和4年（2022年）に4万1,858人となる見込みであり、その後も総じて減少傾向にある。

## 3 基本的考え方

配置計画の策定に当たっては、平成30年（2018年）3月に策定した「これからの高校づくりに関する指針」（以下「指針」という。）に基づき、中卒者数の増減に適切に対応し、教育水準の維持向上などを図る観点から、地域の実情、私立高校の配置状況等を考慮しながら定員の調整や学校の再編整備等を行うとともに、都市部において複数の高校が設置されている場合、望ましい規模の学校についても、地域の実情などに応じて再編整備を行う。

また、生徒の多様な学習ニーズなどに対応するため、次のとおり多様なタイプの高校づくり等を推進する。

### (1) 職業学科の学科転換

産業構造の変化や学科の配置状況、生徒の進路動向などを考慮し、職業学科の学科転換を検討する。

### (2) 総合学科の設置

生徒の多様な能力・適性、興味・関心、進路希望等に応じて、普通教育と専門教育に関する多様な科目を選択して学ぶことができ、幅広い進路希望に対応が可能となる総合学科の設置を進める。

### (3) 単位制の導入

学年による教育課程の区分を設けず、高校の生徒が必ず学ばなければならない科目のほか、学校が開設した多数の選択科目の中から、興味・関心や進路希望等に応じて自分で科目を選択し、主体的な学習が可能となる単位制の導入を進める。

### (4) 地域連携特例校の導入

他の高校への通学が困難な地域を抱え、かつ地元からの進学率が高い（普通科はおよそ1/2、専門学科はおよそ1/4）第1学年1学級の高校を地域連携特例校とし、協力校からの出張授業や通信機器を活用した教育活動への支援等により、教育環境の充実を図る。

#### 4 配置計画案（令和2年度（2020年度）～4年度（2022年度））の概要

昨年決定した令和2年度（2020年度）及び令和3年度（2021年度）の計画を一部変更するとともに、新たに令和4年度（2022年度）の配置計画を策定する。

##### (1) 学級定員

「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」に基づき、1学級の定員は40人とする。

##### (2) 令和2年度（2020年度）～3年度（2021年度）（平成30年度（2018年度）決定）高校配置計画の変更

###### ア 全日制課程

###### (ア) 学級減

令和3年度（2021年度）に1学級減とする小学科について、苫小牧総合経済高校については流通経済科とし、旭川商業高校については情報処理科とする。

###### (イ) 職業学科の学科転換

令和3年度（2021年度）に、学区における学校・学科の配置状況、生徒の進路動向や地域の要望などを総合的に勘案し、学級減と併せて、中標津高校において、商業科と事務情報科を総合ビジネス科に学科転換する。

###### (ウ) 再編整備・単位制の導入

令和3年度（2021年度）に、伊達市内において、今後の中卒者数の状況や学校・学科の配置状況などを勘案し、一定の学校規模を維持し、幅広い教育課程の編成・実施を図る観点から、伊達高校及び伊達緑丘高校を再編し、新設校を設置する。

なお、新設校の募集学級数は6学級、伊達高校の校舎を使用し、生徒の多様な興味・関心や進路希望等に応じた主体的な学習が可能となるよう、普通科単位制を導入する。

###### (エ) 地域連携特例校の導入

令和2年度（2020年度）募集学級数が1学級の場合に、教育環境の維持向上を図るため、新たに羅臼高校を地域連携特例校とする。

###### (オ) その他

平成31年度道立高等学校入学者選抜の結果、第2次募集後の入学者に1学級相当以上の欠員が生じ学級減を行った長沼高校ほか25校の令和2年度（2020年度）の募集学級数については、中卒者数の状況や生徒の進路動向等を精査し、計画決定時に公表する。

###### イ 定時制課程

令和3年度（2021年度）に、学区における学校・学科の配置状況、生徒の進路動向や地域の要望などを総合的に勘案し、学級減と併せて、苫小牧工業高校において、機械科と建築科を工業技術科に学科転換する。

##### (3) 令和4年度（2022年度）高校配置計画

###### 全日制課程

###### ア 学級増

通学区域内の中卒者数を基礎として、生徒の進路動向や学校・学科の配置状況、各学校の在籍状況などを総合的に勘案し、札幌月寒高校ほか4校で5学級の増を行う。

## イ 単位制の導入

釧路市において、釧路北陽高校（市立）でフィールド制を見直し、生徒の多様な進路に対応することができる普通科単位制を導入する。

## 5 地域連携特例校の再編整備の留保

第1学年1学級の高校のうち、地域連携特例校及び農業、水産、看護又は福祉に関する学科を置く高校については、5月1日現在の第1学年の在籍者数が20人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は再編整備を進めることとしているが、こうした状況となっている福島商業高校については、所在市町村をはじめとした地域における、高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取組とその効果を勘案し、再編整備を留保する。

## 6 配置計画の変更

配置計画を策定した後、急激な中卒者数の増減や生徒の進路動向に大きな変動が生じた場合など、学区における中卒者の進路動向等を見極めて、毎年度再検討するほか、次の(1)～(4)に掲げる場合にあっては配置計画を変更することとする。

- (1) 入学者選抜における第2次募集の合格発表後、配置計画で示した募集人員に対し1学級相当以上の欠員が生じた場合
- (2) 5月1日現在の第1学年の在籍者が指針に示した人数要件に該当し、その後も生徒数の増が見込まれない場合
- (3) 学級減と併せた学科転換、地域連携特例校の導入等を実施する場合
- (4) 市町村立高校について、当該市町村において募集人員等の変更を行った場合

## II 公立高等学校配置計画案（令和2年度（2020年度）～4年度（2022年度））の内容

### 1 中学校卒業生数

令和元年(2019年)(実績)	44,255人	(対前年比 734人減少)
令和2年(2020年)(推計)	42,571人	(対前年比 1,684人減少)
令和3年(2021年)(推計)	41,010人	(対前年比 1,561人減少)
令和4年(2022年)(推計)	41,858人	(対前年比 848人増加)

### 2 欠員の状況

(令和元年(2019年)5月1日現在)

公立高等学校全日制	公立高等学校定時制	私立高等学校	合計
3,188人 (138人)	1,316人 (121人)	967人 (-157人)	5,471人 (102人)

※( )は対前年増減

### 3 定員及び中学校卒業生数に対する割合

区 分		公 立			高等専門学校	私立	計	
		全日制	定時制	中等教育学校				
令和元年 度	定 員 (人)	32,650	2,320	240	720	11,397	47,327	
	割 合 (%)	73.8	5.2	0.5	1.6	25.8	106.9	
公立 高等 学校 配 置 計 画 案	令和 2 年 度	学 級 増 (人)	0	0	0	0	0	0
		学 級 減 (人)	-1,000	0	0	0	0	-1,000
		新 設 (人)	0	0	0	0	0	0
		募集停止 (人)	0	0	0	0	0	0
		差引増減 (人)	-1,000	0	0	0	0	-1,000
		定 員 (人)	31,650	2,320	240	720	11,397	46,327
		割 合 (%)	74.3	5.4	0.6	1.7	26.8	108.8
令和 3 年 度	学 級 増 (人)	40	0	0	0	0	40	
	学 級 減 (人)	-640	-40	0	0	0	-680	
	新 設 (人)	280	0	0	0	0	280	
	募集停止 (人)	-360	-40	0	0	0	-400	
	差引増減 (人)	-680	-80	0	0	0	-760	
	定 員 (人)	30,970	2,240	240	720	11,397	45,567	
	割 合 (%)	75.5	5.5	0.6	1.8	27.8	111.1	
令和 4 年 度	学 級 増 (人)	200	0	0	0	0	200	
	学 級 減 (人)	0	0	0	0	0	0	
	新 設 (人)	0	0	0	0	0	0	
	募集停止 (人)	0	0	0	0	0	0	
	差引増減 (人)	200	0	0	0	0	200	
	定 員 (人)	31,170	2,240	240	720	11,397	45,767	
	割 合 (%)	74.5	5.4	0.6	1.7	27.2	109.3	

※1 高等専門学校及び私立の定員については、令和2年度（2020年度）以降は見込みを記載。

※2 霧多布高校（浜中町立）は、1学級の定員を30人としている。

※3 えりも高校（えりも町立）は、1学級の定員を35人としている。

#### 4 配置計画案（令和2年度（2020年度）～4年度（2022年度））の学校別内訳

##### ◎ 令和2年度（2020年度）～4年度（2022年度）高校配置計画／全日制課程

##### (1) 平成31年度道立高等学校入学者選抜における第2次募集後に学級減となった学校の取扱い

学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	H31 (2019) 募集学級数	H31 (2019) 開設学級数	R 2 (2020) 募集学級数
空 知 南	道	長 沼	全	普 通	2	1	計画決定時 に 公 表
	道	栗 山	全	普 通	2	1	
空 知 北	道	芦 別	全	普 通	3	2	
	道	砂 川	全	普 通	3	2	
石 狩	道	札幌南陵	全	普 通	5	4	
	道	札幌東豊	全	普 通	7	6	
	道	野 幌	全	普 通	5	4	
	道	千歳北陽	全	普 通	6	5	
日 高	道	浦 河	全	総 合	4	3	
	道	静 内	全	普 通	5	4	
渡 島	道	八 雲	全	普 通	3	2	
檜 山	道	江 差	全	普 通	3	2	
	道	檜 山 北	全	総 合	3	2	
上 川 南	道	上 川	全	普 通	2	1	
上 川 北	道	名 寄	全	普 通	4	3	
留 萌	道	留 萌	全	普 通	4	3	
宗 谷	道	浜 頓 別	全	普 通	2	1	
	道	利 尻	全	商 業	1	0	
オホーツク東	道	斜 里	全	総 合	2	1	
十 勝	道	清 水	全	総 合	4	3	
	道	大 樹	全	普 通	2	1	
	道	本 別	全	普 通	2	1	
釧 路	道	標 茶	全	総 合	3	2	
	道	弟 子 屈	全	普 通	2	1	
	道	白 糠	全	普 通	2	1	
根 室	道	羅 臼	全	普 通	2	1	
計		26校					

##### (2) 学級増減

##### ① 学級増

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	1学年総学級数
						実施前	実施後		
R 2 (2020)									
R 3 (2021)	石 狩	道	札幌真栄	全	普 通	4	5	+1	4学級→5学級
R 4 (2022)	石 狩	道	札幌月寒	全	普 通	7	8	+1	7学級→8学級
		道	札幌北陵	全	普 通	7	8	+1	7学級→8学級
		道	札幌手稲	全	普 通	7	8	+1	7学級→8学級
		道	札幌丘珠	全	普 通	7	8	+1	7学級→8学級
		道	恵庭北	全	普 通	7	8	+1	7学級→8学級
	(小計)		5校					+5	
計			6校					+6 (+240)	

② 学級減（学科名の前の※印は、平成30年度（2018年度）に決定した配置計画からの変更。）

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	1 学年総学級数
						実施前	実施後		
R 2 (2020)	空 知 南	市	岩見沢緑陵	全	普 通	4	3	-1	6 学級→5 学級
	空 知 北	道	深 川 東	全	商業(大学科)	2	1	-1	3 学級→2 学級
	石 狩	道	札 幌 月 寒	全	普 通	8	7	-1	8 学級→7 学級
		道	札 幌 北 陵	全	普 通	8	7	-1	8 学級→7 学級
		道	札 幌 手 稻	全	普 通	8	7	-1	8 学級→7 学級
		道	札 幌 丘 珠	全	普 通	8	7	-1	8 学級→7 学級
		道	札 幌 西 陵	全	普 通	8	7	-1	8 学級→7 学級
		道	札 幌 白 石	全	普 通	8	7	-1	8 学級→7 学級
		道	札幌あすかぜ	全	普 通	8	7	-1	8 学級→7 学級
		道	千 歳	全	普 通	6	5	-1	9 学級→8 学級
		道	北 広 島 西	全	普 通	8	7	-1	8 学級→7 学級
		道	恵 庭 南	全	普 通	6	5	-1	8 学級→7 学級
	市	市立札幌清田	全	普 通	8	6	-2	8 学級→6 学級	
	後 志	道	小 樽 桜 陽	全	普 通	6	5	-1	6 学級→5 学級
	胆 振 西	道	室 蘭 東 翔	全	綜 合	5	4	-1	5 学級→4 学級
	渡 島	道	函 館 工 業	全	工業(大学科)	6	5	-1	6 学級→5 学級
		道	大 野 農 業	全	農業(大学科)	4	3	-1	4 学級→3 学級
	上 川 南	道	旭 川 東	全	普 通	7	6	-1	7 学級→6 学級
		道	旭 川 永 嶺	全	普 通	7	6	-1	7 学級→6 学級
		道	富良野緑峰	全	商業(大学科)	2	1	-1	4 学級→3 学級
上 川 北	道	名 寄 産 業	全	工業(大学科)	2	1	-1	4 学級→3 学級	
オホーツク東	道	網走南ヶ丘	全	普 通	5	4	-1	5 学級→4 学級	
釧 路	道	釧 路 工 業	全	電子機械	2	1	-1	6 学級→5 学級	
	市	釧 路 北 陽	全	普 通	6	5	-1	6 学級→5 学級	
(小計)			2 4 校					- 2 5	
R 3 (2021)	空 知 北	道	滝 川	全	普 通	5	4	-1	6 学級→5 学級
	石 狩	道	札 幌 東 陵	全	普 通	8	7	-1	8 学級→7 学級
		道	札 幌 英 藍	全	普 通	8	7	-1	8 学級→7 学級
		道	江 別	全	普 通	5	4	-1	8 学級→7 学級
		道	北 広 島	全	普 通	8	7	-1	8 学級→7 学級
		市	市立札幌藻岩	全	普 通	8	6	-2	8 学級→6 学級
	胆 振 西	道	登 別 青 嶺	全	普 通	4	3	-1	4 学級→3 学級
	胆 振 東	道	苫小牧総合経済	全	※流通経済	2	1	-1	4 学級→3 学級
	渡 島	道	函 館 中 部	全	普 通	6	5	-1	6 学級→5 学級
		道	八 雲	全	普 通	(検 討 中)			
	上 川 南	道	旭 川 西	全	普 通	5	4	-1	6 学級→5 学級
		道	旭 川 商 業	全	※情報処理	2	1	-1	6 学級→5 学級
	オホーツク中	道	北 見 緑 陵	全	普 通	4	3	-1	4 学級→3 学級
	十 勝	道	帯 広 柏 葉	全	普 通	7	6	-1	7 学級→6 学級
根 室	道	中 標 津	全	※商業(大学科)	2	1	-1	6 学級→5 学級	
(小計)			1 5 校					- 1 5	
R 4 (2022)	-								
計			3 9 校					- 4 0 (-1,600)	

- R 2（2020）の深川東、函館工業、大野農業、富良野緑峰、名寄産業及び R 3（2021）の中標津の学級減については、「(5) 職業学科の学科転換」を参照。
- R 3（2021）の八雲については、普通科1学級減の2学級とする計画であったが、平成31年度道立高等学校入学者選抜における第2次募集後の学級減により、普通科2学級となったため、中卒者数の状況等を総合的に勘案し、R 2年度（2020年度）に1学級増とならない場合は、R 3（2021）の学級減は実施しない。



(3) 再編整備

① 再編統合等(学校名の前の※印は、平成30年度(2018年度)に決定した配置計画からの変更。)

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘 要
						実施前	実施後		
R 2 (2020)	-								
R 3 (2021)	胆 振 西	道	※伊 達	全	普 通	3	0	- 3	3学級→0学級
		道	※伊達緑丘	全	普 通	4	0	- 4	4学級→0学級
		道	※新 設 校	全	普 通	0	6	+ 6	6学級 伊達校舎を使用
R 4 (2022)	-								
計		再編等に伴う募集停止2校、新設1校						- 1 (- 4 0)	

② 募集停止

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘 要
						実施前	実施後		
R 2 (2020)	-								
R 3 (2021)	空 知 南	道	南 幌	全	普 通	1	0	- 1	1学級→0学級
R 4 (2022)	-								
計		1校						- 1 (- 4 0)	

(4) 再編整備・移管

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘 要
						実施前	実施後		
R 2 (2020)	-								
R 3 (2021)	オホーツク東	道	女 満 別	全	普 通	1	0	- 1	1学級→0学級
		町	東 藻 琴	定	生産科学	[1]	[0]	[- 1]	[1学級→0学級]
		町	新 設 校	全	総 合	0	1	+ 1	1学級 移管予定の女満別及び 東藻琴の校舎を使用
R 4 (2022)	-								
計		再編等に伴う募集停止2校、新設1校						± 0 (± 0)	

・ R 3 (2021) の東藻琴の学級減については、「◎令和2年度(2020年度)～4年度(2022年度)高校配置計画/定時制課程」を参照。

(5) 職業学科の学科転換（再編によるものを除く）

（学校名の前の※印は、平成30年度（2018年度）に決定した配置計画からの変更。）

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘 要
						実施前	実施後		
R 2 (2020)	空 知 北 道	道	深 川 東	全	流通経済	1	0	-1	(再掲) 1学年総学級数 3学級→2学級
					情報処理	1	0	-1	
					総合ビジネス	0	1	+1	
	後 志 道	道	岩 内	全	事務情報	1	0	-1	
					地域産業ビジネス	0	1	+1	
	渡 島 道	道	函 館 工 業	全	電 気	1	0	-1	(再掲) 1学年総学級数 6学級→5学級
					情報技術	1	0	-1	
					電気情報工学	0	1	+1	
		道	大 野 農 業	全	農 業	1	0	-1	(再掲) 1学年総学級数 4学級→3学級
					園 芸	1	0	-1	
					生活科学	1	0	-1	
	上 川 南 道	道	富 良 野 緑 峰	全	情報ビジネス	1	0	-1	(再掲) 1学年総学級数 4学級→3学級
					流通経済	1	0	-1	
					総合ビジネス	0	1	+1	
上 川 北 道	道	名 寄 産 業	全	電子機械	1	0	-1	(再掲) 1学年総学級数 4学級→3学級	
				建築システム	1	0	-1		
				機械・建築システム	0	1	+1		
(小計)		6校					-5		
R 3 (2021)	根 室 道	道	※中 標 津	全	商 業	1	0	-1	(再掲) 1学年総学級数 6学級→5学級
					事務情報	1	0	-1	
					総合ビジネス	0	1	+1	
(小計)		1校					-1		
R 4 (2020)	-								
計		7校					-6 (-240)		

(6) 総合学科の設置（再掲）

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	募集学級数	摘 要
R 2 (2020)	-					
R 3 (2021)	オホーツク東	町	新 設 校	全	1	女満別・東藻琴の再編
R 4 (2022)	-					
計		1校				

(7) 単位制の導入（学校名の前の※印は、平成30年度（2018年度）に決定した配置計画からの変更。）

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数	摘 要
R 2 (2020)	石 狩 市	市	市立札幌清田	全	普 通	6	
	後 志 道	道	岩 内	全	地域産業ビジネス	1	
(小計)		2校					
R 3 (2021)	胆 振 西 道	道	※新 設 校	全	普 通	6	伊達・伊達緑丘の再編
R 4 (2022)	釧 路 市	市	釧 路 北 陽	全	普 通	5	フィールド制の見直し
計		4校					

(8) 地域連携特例校の導入(学校名の前の※印は、平成30年度(2018年度)に決定した配置計画からの変更。)

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	協 力 校	摘 要
R 2 (2020)	根 室 道		※羅 臼	全 普 通		中 標 津	R 2 (2020) 募集学級数が1学級の場合に導入
R 3 (2021)							—
R 4 (2022)							—
計			1 校			1 校	

◎ 令和2年度(2020年度)～4年度(2022年度)高校配置計画/定時制課程

(学科名の前の※印は、平成30年度(2018年度)に決定した配置計画からの変更。)

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	1 学年総学級数
						実施前	実施後		
R 2 (2020)									—
R 3 (2021)	胆 振 東 道		苫小牧工業	定	※機 械	1	0	-1	2 学級→1 学級
					※建 築	1	0	-1	
					※工業技術	0	1	+1	
	オホーツク東 町		東 藻 琴 定	生産科学	1	0	-1	(再掲) 女満別(全日制)と再編 1 学級→0 学級	
	(小計)		2 校				-2		
R 4 (2022)									—
計			2 校					-2 (-80)	

## 5 中学校卒業生数の推計及び推移

中学校卒業生数推計表（令和元年(2019年)推計）

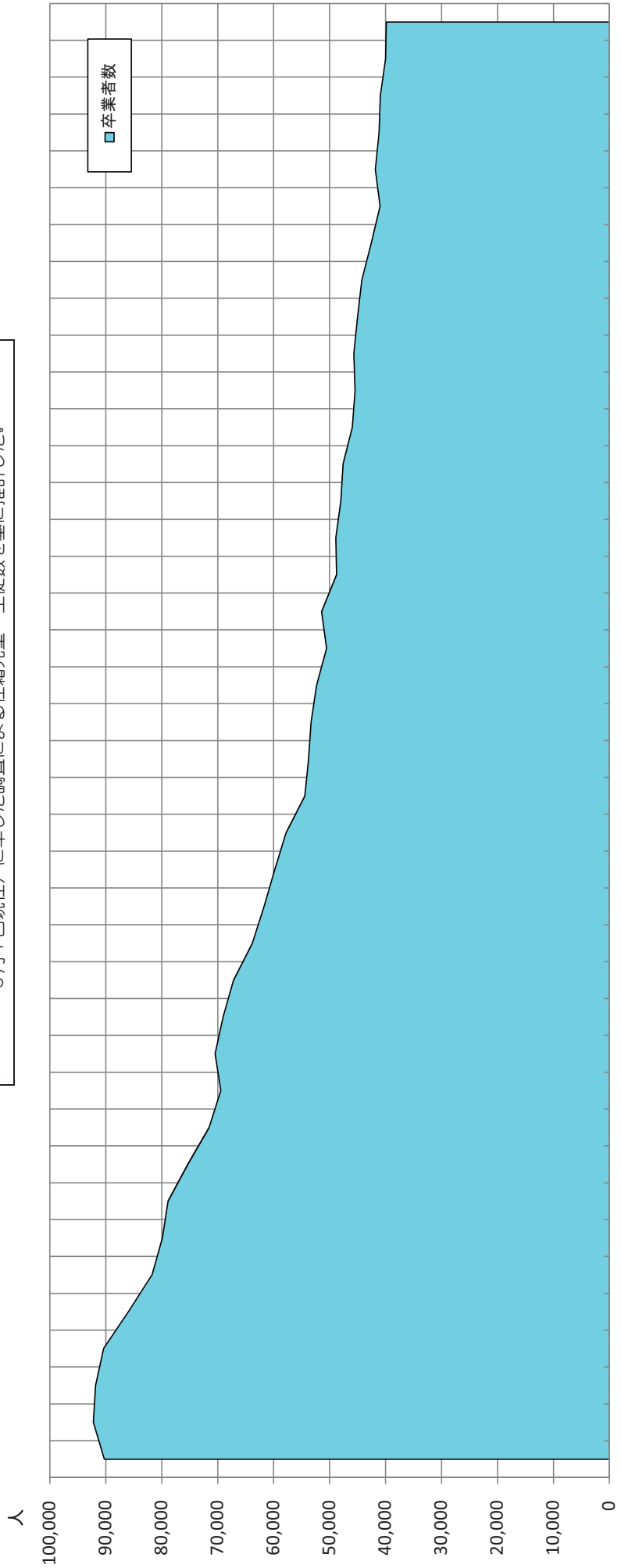
	令和元年 (2019年)	令和2年 (2020年)	令和3年 (2021年)	令和4年 (2022年)	令和5年 (2023年)	令和6年 (2024年)	令和7年 (2025年)	令和8年 (2026年)
空知南	1,195	1,136 ▲ 59	1,121 ▲ 15	1,087 ▲ 34	1,122 +35	997 ▲ 125	1,047 +50	1,034 ▲ 13
空知北	1,002	929 ▲ 73	848 ▲ 81	894 +46	847 ▲ 47	820 ▲ 27	800 ▲ 20	811 +11
石狩	19,892	19,166 ▲ 726	18,779 ▲ 387	19,362 +583	19,407 +45	19,486 +79	19,204 ▲ 282	19,289 +85
後志	1,598	1,462 ▲ 136	1,433 ▲ 29	1,433 ±0	1,416 ▲ 17	1,378 ▲ 38	1,388 +10	1,336 ▲ 52
胆振西	1,536	1,490 ▲ 46	1,370 ▲ 120	1,388 +18	1,356 ▲ 32	1,330 ▲ 26	1,209 ▲ 121	1,202 ▲ 7
胆振東	1,737	1,806 +69	1,707 ▲ 99	1,761 +54	1,674 ▲ 87	1,707 +33	1,705 ▲ 2	1,686 ▲ 19
日高	545	518 ▲ 27	506 ▲ 12	547 +41	511 ▲ 36	483 ▲ 28	467 ▲ 16	477 +10
渡島	3,254	3,135 ▲ 119	2,940 ▲ 195	2,969 +29	2,770 ▲ 199	2,912 +142	2,746 ▲ 166	2,639 ▲ 107
檜山	297	247 ▲ 50	244 ▲ 3	233 ▲ 11	227 ▲ 6	192 ▲ 35	198 +6	217 +19
上川南	3,769	3,588 ▲ 181	3,427 ▲ 161	3,502 +75	3,335 ▲ 167	3,300 ▲ 35	3,225 ▲ 75	3,185 ▲ 40
上川北	489	475 ▲ 14	468 ▲ 7	475 +7	459 ▲ 16	432 ▲ 27	423 ▲ 9	395 ▲ 28
留萌	356	333 ▲ 23	300 ▲ 33	292 ▲ 8	303 +11	280 ▲ 23	271 ▲ 9	294 +23
宗谷	509	514 +5	503 ▲ 11	500 ▲ 3	465 ▲ 35	446 ▲ 19	427 ▲ 19	411 ▲ 16
オホーツク中	1,266	1,237 ▲ 29	1,132 ▲ 105	1,181 +49	1,136 ▲ 45	1,177 +41	1,095 ▲ 82	1,154 +59
オホーツク東	521	500 ▲ 21	497 ▲ 3	488 ▲ 9	438 ▲ 50	501 +63	470 ▲ 31	467 ▲ 3
オホーツク西	525	481 ▲ 44	462 ▲ 19	427 ▲ 35	426 ▲ 1	406 ▲ 20	387 ▲ 19	416 +29
十勝	3,081	2,956 ▲ 125	2,860 ▲ 96	2,849 ▲ 11	2,876 +27	2,827 ▲ 49	2,741 ▲ 86	2,739 ▲ 2
釧路	1,952	1,868 ▲ 84	1,764 ▲ 104	1,801 +37	1,777 ▲ 24	1,648 ▲ 129	1,629 ▲ 19	1,598 ▲ 31
根室	731	730 ▲ 1	649 ▲ 81	669 +20	646 ▲ 23	609 ▲ 37	576 ▲ 33	541 ▲ 35
合計	44,255	42,571 ▲ 1,684	41,010 ▲ 1,561	41,858 +848	41,191 ▲ 667	40,931 ▲ 260	40,008 ▲ 923	39,891 ▲ 117

※中学校卒業生数は、令和元年（2019年）5月1日現在の小学校1年生から中学校3年生までの在籍児童・生徒数を基に、過去の社会的増減等を勘案した推計値。

※令和元年（2019年）は実数、令和2年（2020年）以降の上段は中卒者数、下段は前年比増減。

北海道における中学校卒業（見込）者数の推移  
 （昭和62年（1987年）～令和8年（2026年））

(注) 1 昭和62年（1987年）～令和元年（2019年）は実卒業者数である。  
 2 令和2年（2020年）～令和8年（2026年）は学校基本調査（令和元年（2019年）5月1日現在）に準じた調査による在籍児童・生徒数を基に推計した。



年	S62	S63	H1元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1元	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
卒業者数	90,257	92,222	91,810	90,400	85,909	81,733	79,911	78,884	75,348	71,950	69,441	70,462	69,047	67,180	63,800	61,714	59,783	57,804	54,415	53,778	53,330	52,339	50,537	51,437	48,778	48,907	48,015	47,620	45,958	45,458	45,689	44,989	44,255	42,571	41,010	41,858	41,191	40,931	40,008	39,891
増減	1,298	1,965	-412	-1,410	-4,491	-4,176	-1,822	-1,027	-3,536	-3,798	-2,109	1,021	-1,415	-1,867	-3,380	-2,086	-1,931	-1,979	-3,389	-637	-448	-991	-1,802	900	-2,659	129	-892	-395	-1,662	-500	231	-700	-734	-1,664	-1,561	848	-667	-260	-923	-117

Ⅲ 公立高等学校配置計画案（令和2年度（2020年度）～4年度（2022年度））学区別個表

空知南学区高校配置計画案											
区分	R元 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	令和2～8 (2020～ 2026)年まで の増減	令和5～8 (2023～ 2026)年まで の増減	
学区内中卒者数	1,195	1,136	1,121	1,087	1,122	997	1,047	1,034	▲ 161	▲ 53	
対前年増減		▲ 59	▲ 15	▲ 34	+ 35	▲ 125	+ 50	▲ 13			
岩見沢市中卒者数	( 675 )	( 640 )	( 621 )	( 630 )	( 631 )	( 592 )	( 581 )	( 610 )	▲ 65	▲ 20	
対前年増減		▲ 35	▲ 19	+ 9	+ 1	▲ 39	▲ 11	+ 29			
美唄市中卒者数	( 160 )	( 122 )	( 139 )	( 129 )	( 127 )	( 109 )	( 121 )	( 110 )	▲ 50	▲ 19	
対前年増減		▲ 38	+ 17	▲ 10	▲ 2	▲ 18	+ 12	▲ 11			
三笠市中卒者数	( 55 )	( 49 )	( 60 )	( 54 )	( 43 )	( 45 )	( 47 )	( 52 )	▲ 3	▲ 2	
対前年増減		▲ 6	+ 11	▲ 6	▲ 11	+ 2	+ 2	+ 5			
夕張市中卒者数	( 31 )	( 37 )	( 30 )	( 32 )	( 32 )	( 33 )	( 27 )	( 24 )	▲ 7	▲ 8	
対前年増減		+ 6	▲ 7	+ 2	± 0	+ 1	▲ 6	▲ 3			
学校名	令和元年度 (2019年度)の状況 学科及び募集学級数			R元 (2019) 欠員	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5～8年度(2023～2026年度) までの見通し		摘要	
	普通	職業	計								
単 岩見沢東	5		5	9				○4年間で1～2学級相当の調整が必要 ○欠員の状況や学校・学科の配置状況を考慮して、岩見沢市内において再編整備を含めた公立高校全体での定員調整の検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要 ○第1学年1学級の高校のうち、地理的状況等から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、教育環境の維持向上を図るため、地域連携特例校の導入の検討が必要	夕張の協力校		
単 岩見沢西	3		3	17							
岩見沢農業		農	7	7							
*岩見沢緑陵	4	商	2	6	普▲1						
総 美唄尚栄	2			2	17						
美唄聖華		看	2	2	0						
*三 笠		家	1	1	0						
月 形	1			1	21						
地 夕 張	1			1	20						
長 沼	2→1			1	3	〔計画決定時に公表〕			H31入選 二次募集後学級減		
栗 山	2→1			1	7	〔計画決定時に公表〕		H31入選 二次募集後学級減			
南 幌	1			1	26		普▲1				
12校	21 →19	12	31	135	普▲1	普▲1					

注1 学科種別の「普通」には、普通科のほか、総合学科、理数、外国語、体育等の専門学科を含む。(以下同)

注2 学校名の「単」は単位制、「総」は総合学科、「フ」はフィールド制、「中高」は連携型中高一貫教育校、「中等」は中等教育学校、「地」は地域連携特例校、「産」は産業キャンパス。(以下同)

注3 学校名の\*は市町村立学校。(以下同)

注4 ( )は定時制課程(計欄には含まない、関係学校のみ表示)。(以下同)

注5 令和元年度(2019年度)募集学級数の「→」表示は、第2次募集後の学級減を実施したことを示す。(以下同)

なお、令和2年度(2020年度)の募集学級数は、中卒者数の状況や生徒の進路動向等を精査し、計画決定時に公表する。(以下同)

注6 「令和5～8年度(2023～2026年度)までの見通し」欄の学級数の調整については令和8年(2026年)と令和4年(2022年)の中卒者数の比較により算出。(以下同)

### 空知北学区高校配置計画案

区 分	R元 (2019)	R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	令和2～8 (2020～ 2026)年まで の増減	令和5～8 (2023～ 2026)年まで の増減
学区内中卒者数	1,002	929	848	894	847	820	800	811	▲ 191	▲ 83
対前年増減		▲ 73	▲ 81	+ 46	▲ 47	▲ 27	▲ 20	+ 11		
滝川市中卒者数	( 324 )	( 304 )	( 273 )	( 315 )	( 297 )	( 274 )	( 286 )	( 281 )	▲ 43	▲ 34
対前年増減		▲ 20	▲ 31	+ 42	▲ 18	▲ 23	+ 12	▲ 5		
砂川市中卒者数	( 140 )	( 132 )	( 128 )	( 121 )	( 112 )	( 121 )	( 110 )	( 108 )	▲ 32	▲ 13
対前年増減		▲ 8	▲ 4	▲ 7	▲ 9	+ 9	▲ 11	▲ 2		
歌志内市中卒者数	( 15 )	( 22 )	( 15 )	( 17 )	( 14 )	( 12 )	( 10 )	( 6 )	▲ 9	▲ 11
対前年増減		7	▲ 7	+ 2	▲ 3	▲ 2	▲ 2	▲ 4		
芦別市中卒者数	( 76 )	( 73 )	( 79 )	( 75 )	( 57 )	( 64 )	( 57 )	( 55 )	▲ 21	▲ 20
対前年増減		▲ 3	+ 6	▲ 4	▲ 18	+ 7	▲ 7	▲ 2		
赤平市中卒者数	( 64 )	( 55 )	( 43 )	( 56 )	( 61 )	( 45 )	( 47 )	( 43 )	▲ 21	▲ 13
対前年増減		▲ 9	▲ 12	+ 13	+ 5	▲ 16	+ 2	▲ 4		
深川市中卒者数	( 163 )	( 144 )	( 121 )	( 122 )	( 124 )	( 114 )	( 111 )	( 121 )	▲ 42	▲ 1
対前年増減		▲ 19	▲ 23	+ 1	+ 2	▲ 10	▲ 3	+ 10		
学校名	令和元年度 (2019年度)の状況 学科及び募集学級数			令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5～8年度(2023～2026年度) までの見通し			摘要
	普通	職業	計							
滝 川	6		6	8	普▲1		○4年間で2～3学級相当の調整が必要			
滝川工業		工 2	2	21			○欠員の状況やこれまでの調整を考慮し、再編整備や学校・学科の配置の在り方を含めた定員調整の検討が必要			
*滝川西	3	商 3	6	2			○滝川市内において、再編を含めた定員調整の検討が必要			
単 砂 川	3→2		2	2	(計画決定時に公表)		○深川市内において、欠員の状況や望ましい学校規模を下回る学校があることを考慮し、再編を含めた早急な定員調整の検討が必要			H31入選 二次募集後 学級減
奈井江商業		商 1	1	8			○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要			
新十津川農業		農 1	1	4						
芦 別	3→2		2	18	(計画決定時に公表)					H31入選 二次募集後 学級減
深川西	3		3	34						
深川東		農 1 商 2	3	83	商▲1					
9校	18 →16	10	26	180	商▲1	普▲1				

## 石狩学区高校配置計画案

区 分	R元 (2019)	R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	令和2～8 (2020～ 2026)年まで の増減	令和5～8 (2023～ 2026)年まで の増減
学区内中卒者数	19,892	19,166	18,779	19,362	19,407	19,486	19,204	19,289	▲ 603	▲ 73
対前年増減		▲ 726	▲ 387	+ 583	+ 45	+ 79	▲ 282	+ 85		
札幌市中卒者数	( 15,599 )	( 15,090 )	( 14,856 )	( 15,246 )	( 15,418 )	( 15,427 )	( 15,286 )	( 15,400 )	▲ 199	+ 154
対前年増減		▲ 509	▲ 234	+ 390	+ 172	+ 9	▲ 141	+ 114		
江別市中卒者数	( 1,237 )	( 1,173 )	( 1,139 )	( 1,212 )	( 1,108 )	( 1,156 )	( 1,101 )	( 1,190 )	▲ 47	▲ 22
対前年増減		▲ 64	▲ 34	+ 73	▲ 104	+ 48	▲ 55	+ 89		
千歳市中卒者数	( 911 )	( 871 )	( 910 )	( 927 )	( 910 )	( 963 )	( 916 )	( 924 )	+ 13	▲ 3
対前年増減		▲ 40	+ 39	+ 17	▲ 17	+ 53	▲ 47	+ 8		
恵庭市中卒者数	( 694 )	( 633 )	( 616 )	( 655 )	( 670 )	( 633 )	( 637 )	( 607 )	▲ 87	▲ 48
対前年増減		▲ 61	▲ 17	+ 39	+ 15	▲ 37	+ 4	▲ 30		
北広島市中卒者数	( 707 )	( 646 )	( 592 )	( 618 )	( 643 )	( 603 )	( 641 )	( 585 )	▲ 122	▲ 33
対前年増減		▲ 61	▲ 54	+ 26	+ 25	▲ 40	+ 38	▲ 56		
石狩市中卒者数	( 584 )	( 609 )	( 541 )	( 555 )	( 544 )	( 571 )	( 497 )	( 487 )	▲ 97	▲ 68
対前年増減		+ 25	▲ 68	+ 14	▲ 11	+ 27	▲ 74	▲ 10		
学校名	令和元年度 (2019年度)の状況 学科及び募集学級数			令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5～8年度(2023～2026年度) までの見通し			摘要
	普通	職業	計							
札幌東	8		8	0					○4年間で1～2学級相当の調整が必要	
札幌西	8		8	-3					○各区、市町村ごとの中卒者数の状況、 欠員の状況やこれまでの調整などを考 慮した定員調整の検討が必要	
札幌南	8		8	-2					○札幌市内については、中卒者数の減に あわせて、生徒急増期に新設した高校 を中心とした再編を含め、公立高校全 体での定員調整の検討が必要	
札幌北	8		8	-1					○欠員が40人以上生じている学校につ いて、学科の見直しや定員調整など について検討が必要	
札幌月寒	8		8	-2	普▲1		普+1		○定時制課程について、5月1日現在の 第1学年の在籍者数が10人未満とな り、その後も生徒数の増が見込まれ ない場合は、再編整備の検討が必要と しているが、定時制課程の在り方につ いては、国において検討が進められて いるところであり、こうした国の動向も 踏まえることが必要	
札幌啓成	8		8	0						
札幌北陵	8		8	-1	普▲1		普+1			
単 札幌手稲	8		8	0	普▲1		普+1			
フ 札幌丘珠	8		8	14	普▲1		普+1			
札幌西陵	8		8	4	普▲1					
単 札幌白石	8		8	0	普▲1					
単 札幌東陵	8		8	0		普▲1				
札幌南陵	5→4		4	23	〔計画決定時 に公表〕					H31入選 二次募集後 学級減
札幌東豊	7→6		6	23	〔計画決定時 に公表〕					H31入選 二次募集後 学級減
総 札幌厚別	7		7	-1						
札幌真栄	4		4	0		普+1				
フ 札幌あすかぜ	8		8	27	普▲1					
札幌稲雲	7		7	-1						
フ 札幌平岡	6		6	0						
単 札幌英藍	8		8	0		普▲1				



学校名	令和元年度 (2019年度)の状況 学科及び募集学級数			R元 (2019) 欠員	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5～8年度(2023～2026年度) までの見通し	摘要
	普通	職業	計						
単 札幌白陵	4		4	18					
札幌国際情報	4	工 商	1 3	8	-1				
江 別	5	商 家	2 1	8	27	普▲1			
フ 野 幌	5→4		4	5	〔計画決定時 に公表〕				H31入選 二次募集後 学級減
単 大 麻	7		7	-1					
千 歳	7	商	2	9	-1	普▲1			
フ 千歳北陽	6→5		5	11	〔計画決定時 に公表〕				H31入選 二次募集後 学級減
単 北 広 島	8		8	0		普▲1			
北広島西	8		8	17	普▲1				
石 狩 南	7		7	0					
当 別	2	農 家	1 1	4	62				
恵 庭 南	8		8	1	普▲1				
恵 庭 北	7		7	6			普+1		
札幌工業		工	8	8	15				
札幌琴似工業		工	8	8	12				
札幌東商業		商	8	8	0				
総 石狩翔陽	8		8	0					
単 *市立札幌旭丘	8		8	-2					
*市立札幌藻岩	8		8	-3		普▲2			
*市立札幌平岸	8		8	-1					
*市立札幌清田	8		8	0	普▲2 単位制導入				
中 等 *市立札幌開成	4		4	1					コスモサイエンス科単位制
*市立札幌新川	8		8	-1					
*市立札幌啓北商業		商	6	6	4				
44校	278→ 274	41	315	249	普▲1 2	普▲6 普+1	普+5		

### 後志学区高校配置計画案

区 分	R元 (2019)	R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	令和2～8 (2020～ 2026)年まで の増減	令和5～8 (2023～ 2026)年まで の増減
学区内中卒者数	1,598	1,462	1,433	1,433	1,416	1,378	1,388	1,336	▲ 262	▲ 97
対前年増減		▲ 136	▲ 29	± 0	▲ 17	▲ 38	+ 10	▲ 52		
小樽市中卒者数	( 865 )	( 768 )	( 782 )	( 771 )	( 736 )	( 730 )	( 721 )	( 680 )	▲ 185	▲ 91
対前年増減		▲ 97	+ 14	▲ 11	▲ 35	▲ 6	▲ 9	▲ 41		
学校名	令和元年度 (2019年度)の状況 学科及び募集学級数			R元 (2019) 欠員	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5～8年度(2023～2026年度) までの見通し	摘要	
小樽潮陵	6		6	-1				<ul style="list-style-type: none"> <li>○4年間で1～2学級相当の調整が必要</li> <li>○欠員の状況や学校・学科の配置状況を考慮し、小樽市内において定員調整の検討が必要</li> <li>○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要</li> <li>○欠員が40人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要</li> <li>○地域連携特例校について、再編整備が留保された場合にあっても、5月1日現在の第1学年の在籍者数が10人未満となった場合は、再編整備を進めることとしているため、本年度10人未満となっている高校については、生徒数の確保に向け、一層魅力ある高校づくりが必要</li> <li>○定時制課程について、5月1日現在の第1学年の在籍者数が10人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備の検討が必要としているが、定時制課程の在り方については、国において検討が進められているところであり、こうした国の動向も踏まえることが必要</li> </ul>		
単 小樽桜陽	6		6	0	普▲1					
単 小樽未来創造		工 2 商 2	4	0						
小樽水産		水 4	4	8						
総 余市紅志	2		2	34						
単 岩 内	3	商 1	4	60	商業に単位制導入					寿都の協力校 普通科単位制
地 寿 都	1		1	10						
単 倶 知 安	4		4	18						蘭越の協力校
地 蘭 越	1		1	34						再編整備留保
倶知安農業		農 1	1	18						
10校	23	10	33	181	普▲1					

### 胆振西学区高校配置計画案

区 分		R元 (2019)	R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	令和2～8 (2020～ 2026)年まで の増減	令和5～8 (2023～ 2026)年まで の増減	
学区内中卒者数		1,536	1,490	1,370	1,388	1,356	1,330	1,209	1,202	▲ 334	▲ 186	
対前年増減			▲ 46	▲ 120	+ 18	▲ 32	▲ 26	▲ 121	▲ 7			
室蘭市中卒者数		( 672 )	( 633 )	( 600 )	( 544 )	( 548 )	( 559 )	( 512 )	( 518 )	▲ 154	▲ 26	
対前年増減			▲ 39	▲ 33	▲ 56	+ 4	+ 11	▲ 47	+ 6			
登別市中卒者数		( 495 )	( 425 )	( 404 )	( 440 )	( 427 )	( 405 )	( 356 )	( 363 )	▲ 132	▲ 77	
対前年増減			▲ 70	▲ 21	+ 36	▲ 13	▲ 22	▲ 49	+ 7			
伊達市中卒者数		( 278 )	( 311 )	( 261 )	( 276 )	( 277 )	( 273 )	( 248 )	( 218 )	▲ 60	▲ 58	
対前年増減			+ 33	▲ 50	+ 15	+ 1	▲ 4	▲ 25	▲ 30			
学校名	令和元年度 (2019年度)の状況 学科及び募集学級数			R元 (2019) 欠員	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5～8年度(2023～2026年度) までの見通し			摘要	
	普通	職業	計									
室 蘭 栄	6		6	0				○4年間で3～4学級相当の調整が必要 ○欠員の状況や学校・学科の配置状況を考慮し、室蘭市内において定員調整の検討が必要				
単 室蘭清水丘	4		4	0								
総 室蘭東翔	5		5	0	総▲1							
室蘭工業		工 4	4	19								
登別青嶺	4		4	1		普▲1						
中 登別明日	2		2	4								
伊 達	3		3	24		普▲3 (計画変更)						虻田の協力校
伊達緑丘	4		4	33		普▲4 (計画変更)						
新設校						普+6 単位制導入 (計画変更)						伊達校舎を使用
地 虻 田		商 1	1	27								再編整備留保
*壮 瞥		農 1	1	18								
10校	28	6	34	126	総▲1	普▲8、普+6						

胆振東学区高校配置計画案

区 分		R元 (2019)	R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	令和2～8 (2020～ 2026)年まで の増減	令和5～8 (2023～ 2026)年まで の増減
学区内中卒者数		1,737	1,806	1,707	1,761	1,674	1,707	1,705	1,686	▲ 51	▲ 75
対前年増減			+ 69	▲ 99	+ 54	▲ 87	+ 33	▲ 2	▲ 19		
苫小牧市中卒者数		( 1,471 )	( 1,546 )	( 1,457 )	( 1,503 )	( 1,464 )	( 1,494 )	( 1,462 )	( 1,458 )	▲ 13	▲ 45
対前年増減			+ 75	▲ 89	+ 46	▲ 39	+ 30	▲ 32	▲ 4		
学校名	令和元年度 (2019年度)の状況 学科及び募集学級数			R元 (2019) 欠員	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5～8年度(2023～2026年度) までの見通し		摘要	
	普通	職業	計								
苫小牧東	6		6	0				○4年間で1～2学級相当の調整が必要		厚真の協力校	
苫小牧西	4		4	1				○これまでの調整や学校・学科の配置状況を考慮し、苫小牧市内及び苫小牧市周辺町において、再編整備を含めた定員調整の検討が必要		穂別の協力校	
単 苫小牧南	4		4	0				○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要			
苫小牧工業		工 6	6	0				○地域連携特別校について、5月1日現在の在籍者数が20人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域における、高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取扱とその効果を助案した上で、再編整備の留保の検討が必要			
(苫小牧工業)		(工2)	(2)	(56)		[ 工▲1 ]					
苫小牧総合経済		商 4	4	2		商▲1					
白老東	2		2	10							
地 厚 真	1		1	25							
地 穂 別	1		1	29							
追 分	1		1	14							
中高 鶴 川	2		2	26							
10校	21	10	31	107		商▲1 [ 工▲1 ]					

### 日高学区高校配置計画案

区分	R元 (2019)	R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	令和2～8 (2020～ 2026)年まで の増減	令和5～8 (2023～ 2026)年まで の増減
学区内中卒者数	545	518	506	547	511	483	467	477	▲ 68	▲ 70
対前年増減		▲ 27	▲ 12	+ 41	▲ 36	▲ 28	▲ 16	+ 10		
浦河町中卒者数	( 98 )	( 102 )	( 94 )	( 88 )	( 92 )	( 93 )	( 75 )	( 95 )	▲ 3	+ 7
対前年増減		+ 4	▲ 8	▲ 6	+ 4	+ 1	▲ 18	+ 20		
学校名	令和元年度 (2019年度)の状況 学科及び募集学級数			R元 (2019) 欠員	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5～8年度(2023～2026年度) までの見通し		摘要
単 静 内	5→4		4	1	〔計画決定時 に公表〕			○4年間で1～2学級相当の調整が必要 ○中卒者数や欠員の状況を考慮し、学区全体の 高校配置の在り方について検討が必要 ○小規模校について、中卒者数や地元からの 進学状況、学校・学科の配置状況などを考 慮し、在り方の検討が必要 ○第1学年1学級の高校のうち、地理的状況 から再編が困難であり、かつ地元からの進 学率が高い高校については、教育環境の維 持向上を図るため、地域連携特別校の導入 の検討が必要	平取の協力校 H31入選 二次募集後 学級減	
静内農業		農 2	2	32						
富 川	1		1	20						
地 平 取	1		1	12						
総 浦 河	4→3		3	4						
中高 *えりも	2		2	39						
6校	13 →11	2	13	108						

### 渡島学区高校配置計画案

区 分	R元 (2019)	R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	令和2～8 (2020～ 2026)年まで の増減	令和5～8 (2023～ 2026)年まで の増減
学区内中卒者数	3,254	3,135	2,940	2,969	2,770	2,912	2,746	2,639	▲ 615	▲ 330
対前年増減		▲ 119	▲ 195	+ 29	▲ 199	+ 142	▲ 166	▲ 107		
函館市中卒者数	( 2,077 )	( 1,978 )	( 1,849 )	( 1,909 )	( 1,761 )	( 1,874 )	( 1,757 )	( 1,711 )	▲ 366	▲ 198
対前年増減		▲ 99	▲ 129	+ 60	▲ 148	+ 113	▲ 117	▲ 46		
北斗市中卒者数	( 479 )	( 449 )	( 425 )	( 444 )	( 415 )	( 442 )	( 389 )	( 360 )	▲ 119	▲ 84
対前年増減		▲ 30	▲ 24	+ 19	▲ 29	+ 27	▲ 53	▲ 29		
学校名	令和元年度 (2019年度)の状況 学科及び募集学級数			令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5～8年度(2023～2026年度) までの見通し			摘要
	普通	職業	計							
函館中部	6		6	0	普▲1		○4年間で5～6学級相当の調整が必要		南茅部の協力校	
単 函 館 西	6		6	0			○中卒者数やこれまでの調整、学校・学科の配置状況を考慮し、函館市内において、定員調整の検討が必要		松前の協力校	
単 *市立函館	6		6	0			○中卒者数を考慮し、学校・学科の配置の在り方も含め、北斗市内において、再編を含めた定員調整の検討が必要			
函館水産	水	4	4	10			○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要			
函館商業	商	4	4	0			○地域連携特例校について、5月1日現在の在籍者数が20人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域における、高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取扱とその効果を勘案した上で、再編整備の留保の検討が必要		福島商業の協力校	
函館工業	工	6	6	-1	工▲1		また、5月1日現在の第1学年の在籍者数が2年連続して10人未満となっている場合は、再編整備を進めることとしているため、本年度10人未満となっている高校については、生徒数の確保に向け、一層魅力ある高校づくりが必要			
地 南 茅 部	1		1	31						
上 磯	1		1	10						
七 飯	3		3	0						
大野農業	農	4	4	96	農▲1					
地 松 前	1		1	15						
*知内	2		2	22						
地 福 島 商 業	商	1	1	28					再編整備留保	
八 雲	3→2	商	1	3	〔計画決定時に公表〕	※			長万部の協力校 H31入選 二次募集後 学級減	
総 森	2		2	32						
地 長 万 部	1		1	7						
16校	32→ 31	20	51	282	工▲1 農▲1	普▲1				

※八雲高校については、令和3年度(2021年度)に普通科1学級減の2学級とする計画であったが、平成31年度道立高等学校入学選抜における第2次募集後の学級減により、普通科2学級となったため、令和2年度(2020年度)の欄(9月公表)が「普+1」の場合、令和3年度(2021年度)の欄が「普▲1」となる。

檜山学区高校配置計画案

区 分		R元 (2019)	R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	令和2～8 (2020～ 2026)年まで の増減	令和5～8 (2023～ 2026)年まで の増減
学区内中卒者数		297	247	244	233	227	192	198	217	▲ 80	▲ 16
対前年増減			▲ 50	▲ 3	▲ 11	▲ 6	▲ 35	+ 6	+ 19		
江差町中卒者数		( 52 )	( 56 )	( 52 )	( 49 )	( 58 )	( 43 )	( 39 )	( 39 )	▲ 13	▲ 10
対前年増減			+ 4	▲ 4	▲ 3	+ 9	▲ 15	▲ 4	± 0		
学校名	令和元年度 (2019年度)の状況 学科及び募集学級数			R元 (2019) 欠員	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5～8年度(2023～2026年度) までの見通し			摘要
単 江 差	3→2		2	3	(計画決定時 に公表)			○4年間で0～1学級相当の調整が必要 ○中卒者数や欠員の状況を考慮し、学区全体の高校配置の在り方について検討が必要			上ノ国の協力校 H31入選 二次募集後 学級減
地 上ノ国	1		1	26				○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要			H31入選 二次募集後 学級減
総 檜山北	3→2		2	0	(計画決定時 に公表)			○地域連携特別校について、5月1日現在の在籍者数が20人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域における、高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取扱とその効果を勘案した上で、再編整備の留保の検討が必要			
中高 *奥 尻	1		1	9							
4校	8→6	0	6	38							

上川南学区高校配置計画案

区 分	R元 (2019)	R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	令和2～8 (2020～ 2026)年まで の増減	令和5～8 (2023～ 2026)年まで の増減
学区内中卒者数	3,769	3,588	3,427	3,502	3,335	3,300	3,225	3,185	▲ 584	▲ 317
対前年増減		▲ 181	▲ 161	+ 75	▲ 167	▲ 35	▲ 75	▲ 40		
旭川市中卒者数	( 2,912 )	( 2,725 )	( 2,612 )	( 2,717 )	( 2,551 )	( 2,554 )	( 2,492 )	( 2,425 )	▲ 487	▲ 292
対前年増減		▲ 187	▲ 113	+ 105	▲ 166	+ 3	▲ 62	▲ 67		
富良野市中卒者数	( 181 )	( 186 )	( 163 )	( 165 )	( 162 )	( 161 )	( 139 )	( 172 )	▲ 9	+ 7
対前年増減		+ 5	▲ 23	+ 2	▲ 3	▲ 1	▲ 22	+ 33		
学校名	令和元年度 (2019年度)の状況 学科及び募集学級数			令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5～8年度(2023～2026年度) までの見通し			摘要
	普通	職業	計							
旭川東	7		7	-1	普▲1					
旭川西	6		6	-2		普▲1				
単 旭川北	6		6	-1						
総 旭川南	6		6	1						
単 旭川永蹟	7		7	0	普▲1					
旭川商業		商 6	6	0		商▲1				
旭川工業		工 6	6	0						
旭川農業		農 4	4	-1						
鷹 栖	1		1	8						
東 川	2		2	1						
美 瑛	2		2	27						
中高 上 川	2→1		1	2	〔 計画決定時 に 公 表 〕					H31入選 二次募集後 学級減
単 富良野	4		4	23						
富良野緑峰		商 2 農 1 工 1	4	87	商▲1					
上富良野	1		1	23						
*南富良野	1		1	23						
16校	45→ 44	20	64	190	普▲2 商▲1	普▲1 商▲1				



### 上川北学区高校配置計画案

区 分		R元 (2019)	R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	令和2～8 (2020～ 2026)年まで の増減	令和5～8 (2023～ 2026)年まで の増減
学区内中卒者数		489	475	468	475	459	432	423	395	▲ 94	▲ 80
対前年増減			▲ 14	▲ 7	+ 7	▲ 16	▲ 27	▲ 9	▲ 28		
士別市中卒者数		( 153 )	( 144 )	( 145 )	( 133 )	( 148 )	( 117 )	( 126 )	( 112 )	▲ 41	▲ 21
対前年増減			▲ 9	+ 1	▲ 12	+ 15	▲ 31	+ 9	▲ 14		
名寄市中卒者数		( 208 )	( 207 )	( 188 )	( 227 )	( 198 )	( 203 )	( 178 )	( 175 )	▲ 33	▲ 52
対前年増減			▲ 1	▲ 19	+ 39	▲ 29	+ 5	▲ 25	▲ 3		
学校名	令和元年度 (2019年度)の状況 学科及び募集学級数			R元 (2019) 欠員	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5～8年度(2023～2026年度) までの見通し			摘要
	普通	職業	計								
士別翔雲	3	商 1	4	32				○4年間で2学級相当の調整が必要 ○中卒者数や欠員の状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、名寄市内で再編を含めた定員調整の検討が必要			下川商業の協力校
地 下川商業		商 1	1	9							
名 寄	4→3		3	21	( 計画決定時 に公表 )						
地 美 深	1		1	12							
産 名寄産業		工 2 農 1 家 1	4	84	工▲1						
総 *剣 淵	1		1	22							
*おといねっぶ 美術工芸	1		1	0							
7校	10 →9	6	15	180	工▲1						

留萌学区高校配置計画案

区 分		R元 (2019)	R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	令和2～8 (2020～ 2026)年まで の増減	令和5～8 (2023～ 2026)年まで の増減
学区内中卒者数		356	333	300	292	303	280	271	294	▲ 62	+ 2
対前年増減			▲ 23	▲ 33	▲ 8	+ 11	▲ 23	▲ 9	+ 23		
留萌市中卒者数		( 150 )	( 141 )	( 160 )	( 139 )	( 147 )	( 128 )	( 127 )	( 121 )	▲ 29	▲ 18
対前年増減			▲ 9	+ 19	▲ 21	+ 8	▲ 19	▲ 1	▲ 6		
学校名	令和元年度 (2019年度)の状況 学科及び募集学級数	R元 (2019) 欠員	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5～8年度 (2023～2026年度) までの見通し			摘要		
単 留 萌	4→3 工 1 商 1	5 23				<ul style="list-style-type: none"> <li>○4年間で0～1学級相当の調整が必要</li> <li>○中卒者数や欠員の状況を考慮した定員調整の検討が必要</li> <li>○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要</li> <li>○地域連携特別校について、再編整備が留保された場合にあっても、5月1日現在の第1学年の在籍者数が10人未満となった場合は、再編整備を進めることとしているため、本年度10人未満となっている高校については、生徒数の確保に向け、一層魅力ある高校づくりが必要</li> </ul>			苫前商業の協力校 普通科単位制 H31入選 二次募集後 学級減		
羽 幌	2	2 19									
地 苫前商業	商 1	1 31									再編整備留保
天 塩	2	2 39									
遠別農業	農 1	1 18									
5校	8→7	4 11 130									

宗谷学区高校配置計画案

区 分	R元 (2019)	R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	令和2～8 (2020～ 2026)年まで の増減	令和5～8 (2023～ 2026)年まで の増減
学区内中卒者数	509	514	503	500	465	446	427	411	▲ 98	▲ 89
対前年増減		+ 5	▲ 11	▲ 3	▲ 35	▲ 19	▲ 19	▲ 16		
稚内市中卒者数	( 261 )	( 277 )	( 262 )	( 268 )	( 239 )	( 227 )	( 228 )	( 227 )	▲ 34	▲ 41
対前年増減		+ 16	▲ 15	+ 6	▲ 29	▲ 12	+ 1	▲ 1		
学校名	令和元年度 (2019年度)の状況 学科及び募集学級数			R元 (2019) 欠員	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5～8年度(2023～2026年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
稚 内	3	商 1 看 1	5	33				○4年間で1～2学級相当の調整が必要 ○中卒者数やこれまでの定員調整の状況、欠員の状況を考慮した定員調整の検討が必要	豊富の協力校	
地 豊 富	1		1	27				○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要		
浜 頓 別	2→1		1	3	[計画決定時に公表]			○第1学年1学級の高校のうち、地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、教育環境の維持向上を図るため、地域連携特例校の導入の検討が必要	H31入選 二次募集後学級減	
枝 幸	2		2	18				○地域連携特例校について、5月1日現在の在籍者数が20人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域における、高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取扱とその効果を助案した上で、再編整備の留保の検討が必要	H31入選 二次募集後学級減	
利 尻	1	商 1 →0	1	17	[計画決定時に公表]			○離島にある高校について、5月1日現在の第1学年の在籍者数が10人未満となり、その後生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備の検討が必要		
礼 文	1		1	31				○定時制課程について、5月1日現在の第1学年の在籍者数が10人未満となり、その後生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備の検討が必要としているが、定時制課程の在り方については、国において検討が進められているところであり、こうした国の動向も踏まえることが必要		
6校	10 →9	3 →2	11	129						

### オホーツク中学区高校配置計画案

区 分	R元 (2019)	R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	令和2～8 (2020～ 2026)年まで の増減	令和5～8 (2023～ 2026)年まで の増減
学区内中卒者数	1,266	1,237	1,132	1,181	1,136	1,177	1,095	1,154	▲ 112	▲ 27
対前年増減		▲ 29	▲ 105	+ 49	▲ 45	+ 41	▲ 82	+ 59		
北見市中卒者数	( 964 )	( 941 )	( 864 )	( 889 )	( 907 )	( 916 )	( 833 )	( 886 )	▲ 78	▲ 3
対前年増減		▲ 23	▲ 77	+ 25	+ 18	+ 9	▲ 83	+ 53		
学校名	令和元年度 (2019年度)の状況 学科及び募集学級数			令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5～8年度(2023～2026年度) までの見通し			摘要
	普通	職業	計							
北見北斗	6		6	8					○4年間で0～1学級相当の調整が必要	常呂の協力校
単 北見柏陽	5		5	0					○中卒者数や欠員の状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、北見市内で再編を含めた定員調整の検討が必要	佐呂間の協力校
フ 北見緑陵	4		4	10	普▲1				○欠員が40人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要	
北見工業		工 3	3	13					○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要	
北見商業		商 3	3	25						
置 戸		福 1	1	27					○地域連携特例校について、5月1日現在の第1学年の在籍者数が20人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域における、高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取組とその効果を勘案した上で、再編整備の留保の検討が必要	再編整備留保
総 留辺薬	1		1	26						
地 佐呂間	1		1	19					○第1学年1学級の高校のうち、地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、教育環境の維持向上を図るため、地域連携特例校の導入の検討が必要	再編整備留保
地 常 呂	1		1	29						
訓子府	1		1	28						
地 津 別	1		1	25						
美 幌	2	農 2	4	94						津別の協力校
12校	22	9	31	304	普▲1					

### オホーツク東学区高校配置計画案

区 分		R元 (2019)	R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	令和2～8 (2020～ 2026)年まで の増減	令和5～8 (2023～ 2026)年まで の増減		
学区内中卒者数		521	500	497	488	438	501	470	467	▲ 54	▲ 21		
対前年増減			▲ 21	▲ 3	▲ 9	▲ 50	+ 63	▲ 31	▲ 3				
網走市中卒者数		( 289 )	( 273 )	( 295 )	( 263 )	( 237 )	( 260 )	( 248 )	( 253 )	▲ 36	▲ 10		
対前年増減			▲ 16	+ 22	▲ 32	▲ 26	+ 23	▲ 12	+ 5				
学校名	令和元年度 (2019年度)の状況 学科及び募集学級数			R元 (2019) 欠員	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5～8年度(2023～2026年度) までの見通し			摘要		
単 網走南ヶ丘	5		5	7	普▲1			○4年間で0～1学級相当の調整が必要 ○中卒者数や欠員の状況を考慮した定員調整の検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要 ○定時制課程について、5月1日現在の第1学年の在籍者数が10人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備の検討が必要としているが、定時制課程の在り方については、国において検討が進められているところであり、こうした国の動向も踏まえることが必要			清里の協力校		
網走桂陽	2	商 2	4	29									
女 満 別	1		1	34	普▲1								
( * 東藻琴 )		(農1)	(1)	(25)	[ 農▲1 ]								
* 新設校					総+1								女満別・東藻琴の両校舎を使用
総 斜 里	2→1		1	2	[ 計画決定時に公表 ]								H31入選 二次募集後学級減
地 清 里	1		1	9									
5校	11→10	2	12	81	普▲1	普▲1、[農▲1] 総+1							

## オホーツク西学区高校配置計画案

オホーツク西学区高校配置計画案										
区 分	R元 (2019)	R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	令和2～8 (2020～ 2026)年まで の増減	令和5～8 (2023～ 2026)年まで の増減
学区内中卒者数	525	481	462	427	426	406	387	416		
対前年増減		▲ 44	▲ 19	▲ 35	▲ 1	▲ 20	▲ 19	+ 29	▲ 109	▲ 11
紋別市中卒者数	( 174 )	( 143 )	( 156 )	( 141 )	( 137 )	( 127 )	( 119 )	( 137 )		
対前年増減		▲ 31	+ 13	▲ 15	▲ 4	▲ 10	▲ 8	+ 18	▲ 37	▲ 4
学校名	令和元年度 (2019年度)の状況 学科及び募集学級数			R元 (2019) 欠員	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5～8年度 (2023～2026年度) までの見通し	摘要	
	普通	職業	計							
単 遠 軽	5		5	6				○4年間で0～1学級相当の調整が必要 ○中卒者数や欠員の状況、学校・学科の配置状況を考慮した定員調整の検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要	興部、雄武の協力校	
紋 別	3	商 1 工 1	5	34						
地 興 部	1		1	20						
地 雄 武	1		1	14						
中高湧 別	2		2	37						
5校	12	2	14	111						

十勝学区高校配置計画案

区分	R元 (2019)	R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	令和2～8 (2020～ 2026)年まで の増減	令和5～8 (2023～ 2026)年まで の増減
学区内中卒者数	3,081	2,956	2,860	2,849	2,876	2,827	2,741	2,739	▲ 342	▲ 110
対前年増減		▲ 125	▲ 96	▲ 11	+ 27	▲ 49	▲ 86	▲ 2		
帯広市中卒者数	( 1,367 )	( 1,340 )	( 1,270 )	( 1,311 )	( 1,316 )	( 1,336 )	( 1,313 )	( 1,315 )	▲ 52	+ 4
対前年増減		▲ 27	▲ 70	+ 41	+ 5	+ 20	▲ 23	+ 2		
学校名	令和元年度 (2019年度)の状況 学科及び募集学級数			R元 (2019) 欠員	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5～8年度(2023～2026年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
単 帯広柏葉	7		7	1		普▲1		○4年間で2～3学級相当の調整が必要 ○これまでの調整や生徒の進路動向を考慮し、帯広市内及び帯広市周辺町において、学校・学科の配置の在り方を含めた公立高校全体での再編整備や定員調整の検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要 ○第1学年1学級の高校のうち、地理的状況等から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、教育環境の維持向上を図るため、地域連携特例校の導入の検討が必要		
単 帯広三条	6		6	0						
帯広緑陽	4		4	1						
帯広工業		工 4	4	0						
帯広農業		農 5	5	0						
*帯広南商業		商 5	5	0						
単 音更	4		4	37						
芽室	4		4	0						
霧別清陵	3		3	18						
上士幌	2		2	37						
*士幌		農 2	2	30						
総 清水	4→3		3	12	(計画決定時に公表)				H31入選 二次募集後学級減	
中高 鹿追	2		2	18						
更別農業		農 2	2	33						
大樹	2→1		1	2	(計画決定時に公表)				H31入選 二次募集後学級減	
中高 広尾	2		2	39						
総 池田	2		2	17						
本別	2→1		1	4	(計画決定時に公表)				H31入選 二次募集後学級減	
足寄	2		2	28						
19校	46 →43	18	61	277		普▲1				

釧路学区高校配置計画案

区 分	R元 (2019)	R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	令和2～8 (2020～ 2026)年まで の増減	令和5～8 (2023～ 2026)年まで の増減
学区内中卒者数	1,952	1,868	1,764	1,801	1,777	1,648	1,629	1,598	▲ 354	▲ 203
対前年増減		▲ 84	▲ 104	+ 37	▲ 24	▲ 129	▲ 19	▲ 31		
釧路市中卒者数	( 1,406 )	( 1,352 )	( 1,290 )	( 1,322 )	( 1,322 )	( 1,201 )	( 1,200 )	( 1,190 )	▲ 216	▲ 132
対前年増減		▲ 54	▲ 62	+ 32	± 0	▲ 121	▲ 1	▲ 10		
学校名	令和元年度 (2019年度)の状況 学科及び募集学級数			R元 (2019) 欠員	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5～8年度(2023～2026年度) までの見直し		摘要
	普通	職業	計							
釧路湖陵	6		6	11				○4年間で4～5学級相当の調整が必要 ○これまでの調整や生徒の進路動向を考慮し、釧路市内及び釧路市周辺町において、学校・学科の配置の在り方を含めた公立高校全体での再編整備や定員調整の検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要 ○第1学年1学級の高校のうち、地理的状况等から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、教育環境の維持向上を図るため、地域連携特別校の導入の検討が必要	阿寒の協力校	
単 釧路江南	5		5	0						
釧路商業		商 4	4	0						
釧路工業		工 6	6	19	工▲1					
総 釧路明輝	5		5	0						
フ *釧路北陽	6		6	0	普▲1		単位制導入 〔フィールド制 見直し〕			
釧路東	3		3	0						
地 阿 寒	1		1	17						
白 糠	2→1		1	4	〔計画決定時 に公表〕					H31入選 二次募集後 学級減
総 標 茶	3→2		2	11	〔計画決定時 に公表〕					H31入選 二次募集後 学級減
弟子屈	2→1		1	12	〔計画決定時 に公表〕					H31入選 二次募集後 学級減
厚岸翔洋	1	水 1	2	27						
*霧 多 布	2		2	39						
13校	36 →33	11	44	140	工▲1 普▲1					



### 根室学区高校配置計画案

区 分	R元 (2019)	R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	令和2～8 (2020～ 2026)年まで の増減	令和5～8 (2023～ 2026)年まで の増減
学区内中卒者数	731	730	649	669	646	609	576	541	▲ 190	▲ 128
対前年増減		▲ 1	▲ 81	+ 20	▲ 23	▲ 37	▲ 33	▲ 35		
根室市中卒者数	( 200 )	( 208 )	( 199 )	( 197 )	( 190 )	( 166 )	( 147 )	( 134 )	▲ 66	▲ 63
対前年増減		+ 8	▲ 9	▲ 2	▲ 7	▲ 24	▲ 19	▲ 13		
学校名	令和元年度 (2019年度)の状況 学科及び募集学級数 普通   職業   計			R元 (2019) 欠員	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5～8年度(2023～2026年度) までの見直し	摘要	
単 根 室	3	商 2	5	43				○4年間で3～4学級相当の調整が必要 ○欠員の状況やこれまでの調整を考慮した定員調整の検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要 ○欠員が40人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要	H31入選 二次募集後 学級減	
別 海	3	農 1	4	63						
中 標 津	4	商 2	6	57		商▲1				
標 津	2		2	39						
*中標津農業		農 2	2	35						
中高 羅 臼	2→1		1	8	※					
6校	14 →13	7	20	245		商▲1				

※羅臼高校について、令和2年度(2020年度)の募集学級数は計画決定時に公表するが、1学級の場合には地域連携特別校を導入する(計画変更)。  
なお、その場合、中標津高校を協力校とする。

《全学区共通事項》

令和2年度(2020年度)以降の各通学区域における生徒の進路動向を見極めて、毎年度再検討するとともに、新たに計画に反映させるものとする。